

全国インターアクト研究会

全国インターアクト研究会並びに全国インターアクト委員長会議
第6回全国インターアクト研究会 報告

実行委員長 栃木 秀磨〔足利わたらせ〕

8月19日～20日に第6回全国インターアクト研究会並びに、委員長会議が第2550地区主催で東武ホテルグランデで開催されました。東日本地域で初の開催で大変光栄であります。これも一重に先輩ロータリアンの長年の努力の賜物と感謝申し上げます。来賓として、国際ロータリー理事 石黒慶一様、同理事エレクト 三木明様のご臨席を頂き、また全国から各地区のガバナー、青少年奉仕関係者、顧問の先生とインターアクター約400名が全国からご参加頂きました。

今年の研究会テーマは「未来へのリーダーシップ・かがやけインターアクター」であります。ロータリーの青少年奉仕活動は「育てる奉仕・ともにする奉仕」と言われており、一番若い世代を対象とするインターアクトに大変な期待を持っております。

基調講演は「インターアクターたちがつないだ架け橋」というテーマで、台湾第3470地区PDG陣清輝氏と同国際奉仕委員長 黄元碩氏により発表されました。2011年東日本大震災直後の5月に7名のインターアクターが最初に訪台され、2015年相互交流、2017年3月には70名の参加者がありました。この海外研修を台湾のインターアクターも楽しみにしております。このことが認められ、ロータリーの友5月



号に掲載されました。

分科会は3部門あり、委員長会議は研修費用の関係で、人数制限はやむをえない。最近RIは青少年保護責任を訴えており、青少年と接する際の行動規範を順守する事、そして各地区は危機管理委員会を設置するよう求めている。

顧問会議は海外研修は大変好評ですが、代表者のみ参加できます。部活動が活発となり、例会出席者が減少している。

インターアクトクラブ会長会議で他地区ではほとんど海外研修は行っていない。また、最近はロータリアンとの接触が少ない事が心配されている。

今回は、先生方の悩みやインターアクターの生の声を聞く事ができ、素晴らしい研究会でした。

